

校長室からのお知らせ

6月23日号 NO.7

岸和田市立山直北小学校
校長 尾野 武志

梅雨

農作物の成長、水資源の確保やお肌への潤いなど、梅雨には様々な恩恵があります。しかしながら、子どもたちにとっては、外遊びが減ったり、服やズボン、靴に靴下までもが濡れたりしてストレスを感じる好ましくない時期だと思います。**速乾素材のシャツやズボン、防水加工された靴、ランドセルカバー、替えの靴下、濡れた髪や体を拭くためのタオルなど、無理のない範囲でご用意していただきますと、お子さまが少しでも快適に過ごせるか**と思います。よろしくお願いいたします。

さて、美しい言語の一つだと言われています日本語には、400以上の雨を表す言葉があるそうです。標題の「梅雨」だけでも「走り梅雨⇒梅雨入り前に雨が続く状態」、「暴れ梅雨⇒梅雨終盤に見られる激しい雨」、「送り梅雨⇒梅雨明けのサインとなる雷を伴う雨」、「返り梅雨⇒戻り梅雨や残り梅雨とも呼ばれ梅雨明け後に降る雨」、「空梅雨（からつゆ）⇒旱梅雨（ひでりつゆ）や枯れ梅雨ともいわれ雨が少ない梅雨」とたくさんあるようです。

昔、歌で聞いた「小糠雨（こぬかあめ）降る御堂筋」の小糠雨ですが、春に降るととても弱く細かく降る雨のことで、秋に降ると霧雨（きりさめ）と呼ばれるそうです。

七夕の前日、7月6日に降る雨を「洗車雨（せんしゃう）」と呼び、彦星が織姫に会うために使う牛車を洗う水が降ったものになるそうです。七夕に降る雨を「酒涙雨・催涙雨（さいるいう）」と呼び、雨で会えなくなった織姫と彦星が流した涙と言われています。

よく聞くようになった「ゲリラ豪雨」ですが、昔の人は鬼の仕業かと思うような並外れた雨として「鬼雨（きう）」と呼んでいたそうです。

「雨の歌」で私が思いつくのは、八神純子さんの「みずいろの雨」や八代亜紀さんの「雨の慕情」や小林麻美さんの「雨音はショパンの調べ」等ですが、保護者のみなさまには馴染みが薄いかもしれません。すみません。お伝えしたかったのは、少し大きい太字の4行だけです。

校長室からのお知らせ

6月30日号 NO.8

岸和田市立山直北小学校
校長 尾野 武志

児童会目標

① や 山北にいる友だちを大切にし

② ま 毎日が

③ き 今日を楽しいと思える

④ た 助け合える山北

児童会が決めてくれた今年度の山直北小学校の目標です。「や」「ま」「き」「た」が初めの文字に使われていて、子どもの感性ってすごいなと感心させられます。「あいうえお作文」と呼ばれるタイプですが、いざ作るとなると悩んでしまいます。母の日に感謝の気持ちを込めて作った「あいうえお作文（ありがとう編）」を読んだ記憶があり、覚えていたので紹介します。

⑤ あ んたの（母親）

⑥ り ようり（料理）

⑦ が ちで（本当に）

⑧ と ことん（最後の最後まで）

⑨ う まかったよ（おいしかったよ）

短い言葉ですが、気持ちのこもった秀作だと思います。そう言えば、ありがとうの「あ」はありがとうの「あ」、ありがとうの「り」はありがとうの「り」・・・って繰り返しただけの「あいうえお作文」を提出した子どもが昔いましたが、もしかすると素敵な感性の持ち主だったかもしれません。